ドミニク　ストロスカーン

国際通貨基金専務理事

略歴

ドミニク・ストロスカーンは、2007 年 11 月 1 日、IMF 第 10 代専務理事として、同職に就任した。IMF の理事会による選出に応え、ストロスカーン氏は、世界経済を監視する役を担う 185 加盟国からなる同機関に対し、改革を推し進める意向を表明した。

IMF の現職に就く前に、同氏はフランス国民議会の議員、およびパリ政治学院で経済学教授を務めていた。2001 年から 2007 年にかけ、国民議会に 3 回当選しており、2006 年にはフランス大統領選挙候補者を選出する社会党の党内予備選挙に立候補した。2000～2001 年には、パリ政治学院で経済学の教鞭をとり、また、スタンフォード大学では客員教授に任命されている。また、OECD 事務局長の個人的顧問でもあった。

1997 年 6 月～1999 年 11 月には、仏国経済・財政・産業大臣を務めた。在任中に、ユーロ通貨の導入を果たした。また、同氏は、IMF を含め幾つかの国際的な経済関連機関の理事会に、仏国を代表して席を連ねていた。

1993 年から 1997 年にかけては、民間分野で企業弁護士として活動していた。1991～1993 年には、産業・国際貿易大臣の職を務め、任期中にウルグアイ・ラウンドの通商交渉に参加した。

パリ大学にて経済学の助教授として教職に就き、後に教授となり、1978 年には終身在職権を得ている。次に社会党企画担当委員に任命された (1981～1986 年)。国民議会議員として選出 (1986 年) され、1988～1991 年には財務委員会委員長を務めた。

ストロスカーン氏は、パリ大学で経済学博士号を取得している。また、法学、経営学、政治学、統計学の各学問分野も卒業している。学究の徒としての同氏の研究分野には、家計貯蓄の行動様式、公的金融、および社会政策が含まれる。

フランス人であるストロスカーン氏は、1949 年 4 月 25 日フランスのヌイイースュルセーヌに生まれ、若年時をモロッコで過ごした。